新潟 市政だより

発行所　新潟市役所
新潟市西堀通六番町866ノ3
電話代表2111番
新潟市長
発行人　村田三郎
新潟市旭町二ノ丁2609
編集人　鈴木誠一郎
新潟市附船町一丁目4246
印刷所　文明堂印刷所
新潟市西堀前通4
電話8128番
毎月一回5日発行
定価　一部3円

議長・副議長 常任委員など決る

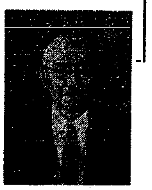
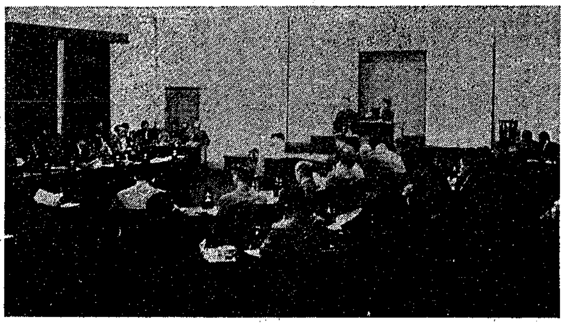


写真 上 渡辺議長 下 長谷川副議長

新潟市議会の議長、副議長、各委員長をきめる定例市議会は去る五月二十一日午後七時から市役所議場において開かれた、当日は四十四名の全議員が出席し地方自治法第百七条により最年長議員熊木徳一氏を臨時議長として議長の選挙を行つた結果、渡辺浩太郎氏が議長に当選次いで新議長の下で副議長の選挙も行われ、長谷川辰蔵氏が副議長に当選した。

かくて常任委員長の選挙を行い、また監査委員を採決によつて選出したが、二十六日再会の本会議にて各部常任委員を議長の指名推薦によつて決定し更に競馬特別委員会港湾交通特別委員会の設置を議決し、この委員も議長の指名推薦で選出、ここに二十六万市民を代表する議決機関の陣容は全くととのつた。



（改選後初めての市議会）

議長、副議長挨拶

去る五月二十一日の定例市議会で議長に選ばれた渡辺浩太郎氏と副議長に選ばれた長谷川辰蔵氏は議場において、次のような就任の挨拶を行つた。

議長　渡辺浩太郎氏

一言ご挨拶を申上げます。只今多数をもちまして議長にご選任頂きましたことを、この上なく光栄に存じ、厚くお礼申上げます。

現在新潟市のおかれております地位並びに将来を考えますとき、甚だその責任の重大なることを痛感いたすものでございます。私非才にしてしかも議事に通暁せず、皆さんの御期待に添え得るかどうか、甚だ疑問とするところでございますが一生懸命努力いたしましてご期待に添いたいと存じます。事の成る成らざるは皆様のご協力によることと存じます。

もちろん議事の運営に当りましては、民主的の運営を心がけて居るものではございますが、一層の御支援を頂きたいと存ずる次第でございます、

副議長　長谷川辰蔵氏

はからずもこのたび光栄ある県都の副議長を仰せつかりまして、ただ感激に堪えない次第でございます。

今後は議長の驥尾に付して市民の皆様の意に添うようにできるだけ努力致したいと思います。以上簡単でございますが今後とも何分ご指導をお願い致します。

常任委員会委員

財政委員会
委員長　小石栄作
委員　倉田勇吉
〃　平田甚
〃　白井正吉
〃　渡辺懲照
〃　渡辺政吉
〃　田村慶栄
〃　大塚長四郎
〃　村山勇一郎
〃　林弘二

総務治安委員会
委員長　藤田友治
委員　坂井一元
〃　平田甚
委員　青木松男
〃　長谷川辰蔵
〃　若槻勉
〃　若月一三
〃　小原康幹
〃　安藤賛雄

厚生委員会
委員長　外川丈夫
委員　坂井ヨシ
〃　安藤文平
〃　白井正吉
〃　猪股新平
〃　矢部京一郎
〃　堅田米吉
〃　小島喜蔵
〃　村山勇一郎
委員　林弘二

文教委員会
委員長　丸山富蔵
委員　坂井ヨシ
〃　藤藤吉
〃　真壁松太郎
〃　渡部重雄
〃　田中松一
〃　河野弘
〃　渡辺喜一
〃　田村慶栄
〃　瀬谷照

建設委員会
委員長　塩谷勇作
委員　川原乙松
〃　倉田勇吉
〃　皆川喜代治
〃　熊木徳一
〃　堅田米吉
〃　若月一三
〃　黒井松蔵
〃　大塚長四郎
〃　安藤賛雄

商工委員会
委員長　大石末蔵
委員　藤藤吉
〃　石原雄一
〃　田中松一
〃　河野弘
〃　渡辺懲照
〃　渡辺喜一
〃　小原康幹
〃　加藤大輔

農林水産委員会
委員長　結城藤作
委員　渡辺政吉
〃　坂井一元
〃　渡部重雄
〃　青木松男
〃　皆川喜代治
〃　猪股新平
〃　黒井松蔵
〃　若槻勉

保険衛生委員会
委員長　吉川平一
委員　安藤文平
〃　川原乙松
〃　石原雄一
〃　真壁松太郎
〃　熊木徳一
〃　小島喜蔵
〃　加藤大輔
〃　矢部京一郎

議会運営委員会
委員長　瀬谷照
委員　小石栄作
〃　安藤文平
〃　結城藤作
〃　石原雄一
〃　白井正吉
〃　河野弘
〃　丸山富蔵
〃　若槻勉
〃　堅田米吉
〃　藤田友治
委員　外川丈夫

教育委員会
委員　安藤文平

監査委員会
委員　河野弘
〃　小原康幹

△特別委員会▽

競馬特別委員会
委員長　村山勇一郎
委員　小石栄作
〃　渡辺政吉
〃　藤藤吉
〃　渡部重雄
〃　青木松男
〃　大石末蔵
〃　丸山富蔵
〃　堅田米吉
委員　若月一三
〃　小原康幹
〃　加藤大輔

港湾交通特別委員会
委員長　川原乙松
委員　塩谷勇作
〃　倉田勇吉
〃　田中松一
〃　皆川喜代治
〃　河野弘
〃　猪股新平
〃　田村慶栄
〃　渡辺喜一
〃　大塚長四郎
〃　安藤賛雄
〃　黒井松蔵
〃　林弘二

期待される初の県下市長会
＝小千谷市で開かる＝

市制施行地域の急増に伴つて県下の市もここ一二年の間に旧来の七市から一躍十九市の多数にのぼり、地方自治体の発展はまことに目覚しく、この十九市を結ぶ県下市長会も新らしい構成メンバーを加えていよいよ活溌な動きを見せようとしている。

即ちこの十九市の市長は六月七日小千谷市役所でその面識会を兼ねて本年度最初の県下市長会を開催することになつた。

当日の議題については目下各市で準備が進められているが、予想される問題中には、デフレ政策による金融機関の貸出引締めを緩和する、地方産業育成資金の預託についての要請や、戦前は運行されながら戦時中から杜絶している新潟－長野－名古屋直通客、貨列車の再開方促進についての要望事項等が協議されるものと見られている。

いずれにしてもこの市長会で協議される問題は、都市共通の問題点を集約したもので大新潟県の建設に役立てようとするものだけにその成果は各方面から大きな期待がもたれている。

着々整備される 新市域の学校
下山分校の昇格と沼垂高校松浜分校

新市域の発展はしきりに学校や教室の不足を告げているが旧来松浜小学校の分校であつた下山分校も、本校を阿賀野川の対岸に遠くへだてているため、五月一日市立下山小学校と名ずけて独立させることになつた。

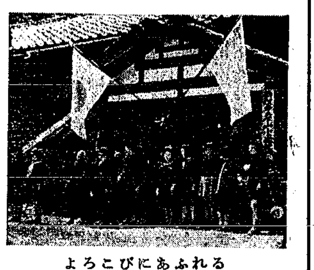
この松浜分校は明治三十五年四月開設されたもので半世紀に亘る歴史は古く、多数の卒業生を送つた訳であるが、ここに独立校としてその第一頁を起すことになり地元関係者の喜びは大きい。

これで新潟市唯一の分校もなくなり市立の小学校は三十四カ校となつた訳で、この下山小学校は児童数一〇九、四学級、職員五名という小規模ながら、この地区は将来市民の住宅街として発展が予想されるので、この学校にかけられる期待もまた大きい。

一方また中学を卒業したあふれる子女の向学心と地元の要望に応え、松浜小学校に、市立沼垂高等学校松浜分校を開設し四月五日開校式をあげた。

この学校は昭和二十七年青年学級として発足し地域的な青年子女の教育に務めて来たが、教育の重要性は次第に高まり地元指導者の熱意は遂に定時制の分校に移行することになつたものである。

この分校を中心とした松浜、濁川、南浜の戸数は約二、五〇〇、人口約一六、〇〇〇で地理的にみて必ずしも恵まれているとは言いないが、将来工場が誘致され、住宅街が造成され、農漁業が振興されれば一層教育機関の充実に迫られることは当然で、この際分校であつても開設されたことは意義深い。現在の生徒数は七十六名（内女子二十五）二学級編成で、教師は専任二名、時間制講師九名である。



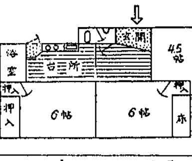
よろこびにあふれる
市立・下山小校学
（開校日当日写す）

受付を始めた 分譲住宅の購入申込み
A.B.C.D型 67戸建築

住宅金融公庫の融資による昭和三十年度新潟市の分譲住宅購入希望者の申込受付が始まりました。これは従来の「建売住宅」と呼んでいたもので、その申込の要領は次のようになつていますから、ご希望の方は至急申込んで下さい。

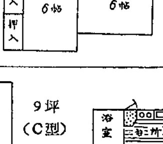
一、受付期間　六月六日から十五日まで
二、受付場所　市役所民生課住宅係
三、申込資格　住宅にお困りのことが明らかで市内に住んでいる方、及び市内に勤務先を持つている方で、住宅建築費の自己負担金（頭金）を支払う力があり確実な保証人のある方
四、建築場所　市内天神尾（新新潟駅南側）
五、種類及び戸数（予定）
‖公庫の割当により多少の変動あり‖
A型住宅（土地五五坪建坪一五坪）一八戸。
B型住宅（土地五〇坪建坪一二坪）二七戸。
C型住宅（土地四五坪建坪九坪）一八戸。
D型店舗併用住宅（土地五五坪建坪一六坪）‖住宅一二坪、店舗四坪‖四戸。
六、住宅一戸当りの総建築費と自己負担金
A型‖総建築費約七四万円。自己負担金二七万円。
B型‖総建築費約六三万円。自己負担金二四万円。
C型‖総建築費約五二万円。自己負担金二〇万円。
D型‖総建築費約七八万円。自己負担金三八万円。

15坪（A型）北入



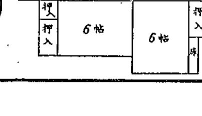
自己負担金は大体右のようになつていますが、申込者の月収によつて増額される場合があります。

12坪（B型）西入

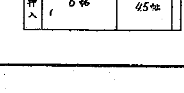


七、申込の節持参しなければならないもの
1 官製ハガキ二枚
2 飯米通帳。
八、説明会の開催
六月十八日（土）午後一時半より西堀通三番町西堀保育園で申込者に対して説明会を催します。
十、店舗の開設について
D型住宅四戸の店舗は食料品店、日用雑貨店、理髪店、薬局等の商店が考えられていますので、希望者は申込と同時に店舗の種類も申添えて頂くことになつています。
その他ご不明の点は市役所民生課住宅係（直通電話六、三七四番）へお問合せ下さい。

店舗併用住宅 16坪（住宅12坪 店舗4坪）（D型）



9坪（C型）東入



市水道給水状況　四月中
総配水量　一、一七七、九五四立方米
一日平均配水量　三九、二六五立方米
給水人口　一七七、八〇五人
給水戸数　三三、四六七戸
一人一日平均…　・二二〇立方米

昭和30年4.5月の新潟港入港船舶のお知らせ　（市港湾係調）

入港

月日	船名	国籍	重量屯数	仕出港	積荷名	積荷屯数
4.30	伊勢丸	日本	1,540	釜山（韓国）	黒鉛	1,000L/T
5. 2	ネプレツタ号	イギリス	12,402	ミリ（ボルネオ）	原油	11,568
5. 4	富士山丸	日本	15,651	メナハマデラ（アラビア）	原油	13,070
5. 6	エゲロー号	ノルウエー	12,010	ソロン（ニユーギニヤ）	原油	11,500
5. 8	カルテツクスセブ号	パナマ	16,386	ラスタヌラ（アラビア）	原油	14,711
5.14	神通川丸	日本	10,373	マカテヤ（南洋諸島）	燐鉱石	5,320
5.14	フローレンスラツケンバツハ	アメリカ	12,250	タンパー（北アメリカ）	燐鉱石	4,518
5.17	アメリカン号	アメリカ	14,761	タンパー（北アメリカ）	燐鉱石	7,218
計	8隻					68,905